一般質問（3）

魅力あるひばりヶ丘駅周辺のまちづくりを推進！

佐々木順一（公明）

行政組織と執行体制の改革

質問　総合計画に基づく執行体制を見直し、効率的でスリムな行政組織の構築を図れ。

市長　新たな政策課題に対処する組織体制を検討する。

ひばりヶ丘駅のまちづくり

質問　この事業は「どのような魅力あるまちを創造するのか」が目的である。

①南口の都市整備公団との再開発事業の進捗状況②北口まちづくりに良質な民間資本を誘導する事業手法の検討を図れ。

市長　①関係者と協議し、所期の事業目的に努力したい②周辺道路整備を含めて整備し、民間資本の活用も視野に入れて推進する。

東大農場の移転問題

質問　防災公園街区整備事業の見解を伺う。

市長　情報では東大農場処分は21年度以降になる。防災公園は大きな財源が必要で、選択肢の一つである。

通学路の交通安全対策

質問　栄小東側に建設中の都市計画道路における通学路の安全対策を図れ。

市長　関係者と協議し子どもの通学に安全を期したい。

農産物の直売センター事業

質問　農業振興策として「直売センター事業」を推進せよ。

市長　JAや農業団体と協議調整を図り、実現したい。

スポーツセンター（中町1丁目）

指定管理者制度は公の保障をNPO企画の選考は公開で

渡辺嘉津子（生ネ）

自治法改正で公の施設の管理を民間事業者が行えるようになった。

質問　今後の予定は？

答弁　コミュニティ施設、高齢者在宅サービスセンター、障害者センター、スポーツ施設等が当面の対象。手続条例と管理者指定議決は平成17年、実施は平成18年4月からの予定。

質問　個人情報保護、首長・議員の親族会社の禁止規定、情報公開など〝公〟を担保する条件を市民と合意して一般条例化せよ。

答弁　施設の特性があるので個別の施設条例で対応。

要望　選考手続など市民がわかる一般条例をつくれ。

実体ある市民との協働を

質問　市策定の「協働基本方針」をどう実現するか。

答弁　職員研修で理解深化。

要望　全庁的調整機能を持つ協働推進部署の設置を。

質問　NPO企画事業の選考は公開プレゼンを行え。

答弁　そのようにし、審査会の市民登用も考える。

公民館保育事業の拡充を

質問　単発の講座に保育がつかないなど、現制度は使いにくい。昨年の公運審の意見具申は検討したのか。

答弁　早急に結論を出したい。

◆障がい児教育検討懇談会の市民公募の選考基準。

◆市民の意見を聞く会の開催の提案。

電子メールのマナーは学校でも、教えるべき

保谷七緒美（生ネ）

質問　男女平等参画推進計画がこの3月に本市にもできた。仕事と家庭両立推進企業への優遇措置、DV対策として民間シェルターへの支援と緊急一時避難場所の確保が重点的取り組みとなっていることを特に評価する。今後の進め方を問う。

答弁　優遇措置については、先進事例の調査を行い、検討する。DV対策は、多摩地区の実施市の状況を参考にし、研究する。

質問　地域で展開している、主に小中学生を対象とした事業、具体的には、学校施設開放事業、昨年まで学校週5日制対策事業と呼んでいた地域生涯学習事業、青少年育成会の活動、ふれあいのまちづくり運動、公民館主催事業は、実際にかかわっている人はどれも一緒で、負担が大きいという声をよく聞くが、見解を問う。

答弁　負担が大きくならないよう努めていきたい。

質問　長崎で小学生の殺人事件があったが、今や、子どものいじめは、インターネット上の掲示板やチャットの中で行われるのが普通だという。メールやチャットのマナーというものを学校でも教えるべきと思うが、いかがか。

答弁　真剣に考えるべきだと思う。

市内建設業者育成の配慮と共同企業体の契約制度は

保谷　育彦（自民西）

質問　予算制度の改革で成果重視の評価方法について。

答弁　可能であれば、予算編成の権限を各担当部局に移譲し、行政コストの削減や効率化を図る方法を視野に入れて取り組みたい。

質問　公共施設管理委託方式について伺う。

答弁　行革の一端として市民サービスの低下を招かないことを大前提に取り組む。

質問　工事請負制度の点数制と市内業者への配慮は。

答弁　経営審査事項でランク分けし、発注金額に応じた業者に発注する仕組みだが、市内業者は下位でも参加できるよう配慮しており、実績でも高くなっている。

質問　最低制限価格と自由競争価格について。

答弁　基本的には自由競争による低廉な価格が望ましいが、ダンピング競争で健全な競争が阻害され、公正な取引秩序を乱されることがあることなどを背景に、適正価格の考え方と地域経済の実情など考慮し、導入しているのが実情である。

質問　共同企業体の契約制度について。

答弁　本市では実績もなく、国の共同企業体運用準則や東京都のJV取扱基準のようなものはないが、制度的には導入可能なので、問題点を考慮に入れて個々の案件ごとに検討する。

田無駅北口周辺の環境整備、市の文化財保護施策について

海老沢　進（自民西）

質問　田無駅北口周辺は、日・祭日はアスタ地下駐車場に並ぶ車で渋滞する。

歩道上で人の間を走り抜ける自転車や、飲食店が並ぶ西側歩道に夜間放置される自転車も危険だ。

また、西側歩車道の境にロープが張られたが、ここは横断歩道を新設し、安全・便利に横断したいとの要望だった。

答弁　空き待ち駐車を制限し、車を流すように改善した。自転車は原則車道の左端通行だ。夜間の放置自転車対策は今後検討したい。

横断歩道新設については警察が許可せず、柵をまたいで横断する人が多く、危険なので、ロープで遮断した。夏ごろデザインのよいものに改める。

200万人記念はなバス

質問　市の文化財保護についての市長の認識は。都市化が進み、郷土資料は失われる一方だが、収集の努力と保存・活用策は。

答弁　郷土の歴史や文化を理解し、親しむことが我が町への愛着を生む。遺跡や出土品、郷土の民具等の保存・整理・展示のため西原二小跡に郷土資料室を整備し、保存・整理を進める。

また、合併記念公園内に穀櫃（稗倉）の礎石12棟分約27ｍを設置する。ただし、建物復元の予定は今のところない。

市長は市民生活の安全を守る先頭に立て

遠藤源太郎（自民西）

ひばりヶ丘駅北口

質問　ひばりヶ丘駅北口整備には再開発手法と街路事業手法があるが、行政のシミュレーションを生かせ。

答弁　再開発手法は費用が2倍かかる。こうしたシミュレーションを示して関係住民の方の合意を得たい。

質問　三共跡地に大型店が24時間営業で出店を計画しているが、この地域には不必要。近隣住民も反対だ。緑も激減し、環境も変わってしまった。市長は先頭に立って市民生活を守れ。

答弁　行政には限界があるが、最大限努力していく。

質問　南町6丁目の新設交差点、境新道から田無庁舎方面に行く交差点、石川島西側丁字路は大変危険である。信号機を設置せよ。

答弁　信号機設置の要望は多く、苦慮している。

質問　緑と歴史の散歩道は、西東京市になって動きが見られないが中止か。

答弁　総合計画の中で散策ルートを調査研究中である。

質問　農産物の西東京ブランドの検討成果は。

答弁　農業振興策の中で大きく取り上げられており、プロジェクトで検討中。

質問　はなバス第3ルートの一部を見直し、内陸部を走らせることについて。

答弁　一部道路が狭く、車両制限令がクリアできない。6ｍ幅員確保に努力したい。

特養待機者対策・養護学校卒後対策・教科書採択を問う

土井　節子（無所属）

特養待機者対策

質問　保有ベッド数440床に対して待機者は2千463人いる。入所基準の見直し（必要度優先）により効果は出たか。公平性・透明性は確保されたか。待機者問題をどう考えるか。

答弁　優先度の高い要介護4・5の方の入所がふえた。

平成15年度新規入居者は79人。検討結果は本人に情報提供する。

養護学校卒後対策

質問　養護学校等卒業後の知的障害者・身体障害者の生活訓練の場は確保されているか。また、職員配置はどうなるのか。

答弁　今年は18名の卒業者がおり、市の訓練室に4名入所した。今後田無障害者福祉センターを改修して定員を拡大する。将来的には、障害者総合福祉センターの建設、両障害者福祉センターの機能を見直す。職員配置は、入所者に見合った配置に努める。

教科書採択制度

質問　教科用図書採択事務要綱の見直し予定はあるのか。どこを見直すのか。

答弁　要綱は文言の修正はしたが、13年度のものと変わっていない。

質問　文言の修正だけか。

答弁　絞り込みをなくす。

意見　絞り込みをなくすことが文言の修正と言えるか。

一般質問（4）

地区計画・まちづくり条例で地域紛争の予防を

森下　典子（生ネ）

保谷駅南口再開発ビルへの公民館・図書館の移設

質問　保留床の民間売却断念の経緯など、市民に議会と同じ説明がされていない。市民合意は十分得られたか。

答弁　100％の納得はいただけないと思う。理解が得られるよう努力していく。

意見　市民は決定前の参加を望んでいる。都市計画決定後の市民説明会は問題だ。

質問　影響を受ける市民の意向を把握し、施設整備のバックデータとなる意向調査を実施しないか。

答弁　考えはない。

まちづくり条例の検討を

質問　マンション建設や大型商業施設の出店者に事前相談を義務づけ、市民との調整手続を定めた市独自の条例を検討しないか。

答弁　都条例、法の範囲で対応する。事前相談の確実な実施を都に求めていく。

質問　建築物をあらかじめ規制する「地区計画」を住民が提案できる条例整備を。

答弁　検討したい。支援策の拡充も調査研究する。

東大農場について

質問　21年度までは売却の計画はないということ。合併特例債活用の見通しは。

答弁　6カ年中に処分した場合、農場に25％、財務経営センターに75％をプールする取り決め。特例債の活用は非常に可能性が低い。

前例踏襲主義・道路整備計画公共施設適正配置計画は？

猪野　滋（市ク）

質問　前例踏襲主義とは何か。脱却の必要性とは何か。

答弁　過去の事例や既定の枠の中で漫然と行政運営を行うのではなく、新発想やアイデアを行政運営の場で実践することが大事。今年4月スタートの総合計画は市民参加の手法を取り入れて策定した。推進も前例のない新システムで取り組む。

質問　平成17年度策定予定の道路整備計画の課題と取り組み状況及び東京都建築安全条例との関係を問う。

答弁　市道は長期的視点での改善が必要。交通安全上危険な箇所、緊急に整備する必要度合いが高い道路、隅切りや拡幅の必要な道路など、都市計画道路の整備等も考慮し、整備を進める。今年度は30カ所の交通量調査を実施。都条例との関係では、接道の幅員が狭く、条例上の特例により建築された施設もあり、今後も予定される。都と調整を行う。

下保谷図書館

質問　公共施設適正配置計画の評価は。学校教育施設はどうするのか。まちづくりにどう生かすのか。

答弁　施設の状況と課題の検討、近隣市の状況調査から利用経歴、適正規模を検証し、方針を策定した。総合計画に生かす。教育施設は、教育環境の変動により直ちに結論は持ち得ないが、継続的に検討したい。

指定管理者制度、東大農場、保谷駅南口再開発を問う

相馬　和弘（市ク）

質問　指定管理者制度は規制緩和、官から民という時代の流れの中でうまく運用されれば多様化する市民ニーズに効果的、効率的に対応することが期待できる。

一方、市場経済主義による公平性・平等性の後退などが危惧される。市の基本的な考え方と対象施設について伺う。

答弁　自治法の改正に伴い、質の高いサービスの提供、行革の推進に向け、今後具体的に検討していく。

質問　東大農場の緑地としての存続については今後市民の世論の高まりに期待するが、東大農場を横切るとされる都市計画道路の整備計画はどうなっているか。

過去、田無で免許証更新所の誘致の議論があったが、現在も可能性があるのか。

答弁　平成17年着工もしくは完成の位置づけである。

免許証更新所設置については今のところ情報はない。

質問　保谷駅南口再開発について、秋の事業決定に向けて権利者との合意状況はどうか。商業床の過不足、店舗配置計画などスムーズに進むのか。公益施設導入は、説明会では公民館、図書館利用者の理解を得られていないということだが。

答弁　今後も市民の理解を得られるよう、最大限努力をしていく。

地方自治は手続が大事！説明と、市民の納得が必要！

森　輝雄（無所属）

用途地域の変更

質問　36ｍ道路沿道の用途地域の変更は、市民に説明した内容と正反対に違う。

答弁　変更を求めたが都の案からは外された。道路事業を進める手法として、再度要請し認められた。

質問　市民にどんな説明をしたのか。説明と違うことが行われている。

答弁　全戸配布したものには道路部分の見直しは入っていない。よくしたと思っているから、市民への説明は必要なかった。

意見　市民に説明したことと違うことをやってもいいのか。都の要綱に合うように市の指針を書きかえ、一度市民に説明している。その後都がいいと言っても、市民に説明したことと違っているからと断るか、もう一度市民説明をやり直すのが当然だ。市民のことを考えていない。

調布保谷線（東伏見コミュニティセンター前）

保谷駅南口再開発

質問　「公益施設が求められている」とあるが、市民説明はこれでいいのか。

答弁　市民説明は済んだ。

質問　それではうそになる。議会では求められていないとして審議してきた。議会の審議経過を踏まえて、保留床処分の見通しが立たず施設が必要になってきたと、経過を説明すべきだ。

答弁　同時進行で説明した。

子どもたちに心の豊かさを市民生活の安全を！

平井　勝（自民）

質問　中学校の1年間2期制の取り組みと、今後の方向性について。

教育長　試行により生徒や保護者との面談、学習相談、進路指導に時間を充てることができる。

これらを今後検討し、一定の評価があれば他の学校にも広げていきたい。

質問　長期滞在体験学習（セカンドスクール）について、今後研究・検討する考えはないか。

教育長　授業時間の確保と、移動教室・修学旅行との関係を精査し、校長先生・保護者の意見等を十分聞きながら研究していきたい。

質問　市民要望の多い市民農園・家族農園を、市内に適正・適量配置する考えはないか。

市長　農業者にご協力いただき、拡張を図っていく。

親子体験農業

質問　犯罪のない安全なまちづくり条例の啓蒙活動について。

部長　市民安全パトロールの講座、自主的防犯市民組織への助成、情報提供（市報・ホームページ）で注意を喚起していくほか、防犯広報掲示板への掲示も予定している。

質問　前立腺がん検診の実施を。

市長　がん検診事業全体を見直す中で、効果的ながん検診に努める。

東伏見駅周辺のまちづくりと体験農園の実施について

稲垣　裕二（自民）

東伏見駅南口

質問　都市計画道路3・4・17号線（東伏見駅から青梅街道への計画道路）の整備計画について。

部長　現在の計画では用地買収を平成23年から25年、橋梁工事を平成25年、道路部分を26年、完成年次は計画上26年中である。

質問　市道ほ47、49、340号線（早大グラウンド通り）の改良工事は、今年度いつごろどのように行うのか。

市長　舗装打ちかえ工事であり、期間は石神井川改修工事に伴うガス管移設を9月まで、その後11月から来年3月を予定している。

質問　東伏見駅周辺地区はさまざまな都市計画があり、今後大きな変化があると考える。そこで東伏見駅を中心とした公共施設の検討を進めるべきである。この地区の公共施設についてどのように考えるのか。

市長　将来における公共施設の研究課題として取り組んでいきたい。

要望　大きな課題の一つとして取り組んでもらいたい。

質問　体験農園の実施に向けて、3月上旬には利用者説明会を、さらにそれ以前には行政の広報を利用した募集が必要と考えるが、どのように進めるのか。

市長　今年度研究会を設置しており、研究会の検討結果を踏まえて実施していく。